

北海道文教大学 後援会 後援会報

No. 8

CONTENTS

- 後援会活動報告 1
- 理事長・学長挨拶 2
- 就職課便り 3
- 平成22年度決算 4
- 平成23年度予算・事業計画 4
- 平成23年度北海道文教大学父母懇談会 4

平成24年1月18日(水)

発行責任者 遠山英行
発行係 T061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
北海道文教大学事務局学務部学生課内
北海道文教大学後援会 TEL0123-34-0011

「平成23年度の後援会活動などについて」

北海道文教大学後援会会長 遠山英行



被災地に向き、応援活動を行う等の後援会広報費を充てることが可能な活動に関して支援していくことを確認しました。

③ 総会時点を活用し役員就任申請アンケートなどの実施について役員就任の手がかりがない状況が続いているのであれば、総会参加者に対してアンケートを配布し、役員就任の意思確認をすることが選出をスムーズにする一助となるのでは？という意見が出されました。

④ 予算の執行率について決算時点での予算執行率表示をしいただくことで、その事業に対する予算が適当であったかどうかを判断できるのではないかという意見が出されました。今後、前向きに検討していきます。

初めに、年が明け、希望に満ちた一年の始まりとなるべきところが、国内外を取り巻く情勢不安によって厳しい一年の幕開けとなった感があります。日本再生といわれて久いですが、絵に描いた餅とならぬように、国民一人一人が国の将来に対して関心を持ち続けていくことが今求められている時代ではないと思われまふ。

2012年は学校法人鶴岡学園が節目となる創立70周年を迎える記念すべき年に当たります。地方都市にありながら、また少子化社会という環境を跳ね返り、確実に歩みを進めている北海道文教大学の躍進とそれを支えている学長はじめ大関関係者の労苦に感謝申し上げる次第です。

さて、会員の皆様には日頃から後援会の活動にご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

北海道文教大学後援会は、文教大学建学の精神に則り、会員の皆様方相互のご協力によって、大学を後援し、その発展充実に寄与することを目的として、会員の皆様からお預かりした会費収入により、様々な事業を展開してまいります。

この会報は、後援会事業の報告などを通して会員の皆様へ後援会に対するご理解を深めていただき、関心を持っていただくことを目的として、平成19年から開始し、今回で第8号となります。

本号では、会員の皆様には是非お知らせしたい事例や今年度予算案の概要などについてご報告させていただきます。

後援会事務局を北海道文教大学内に置いていることから、諸事務に關しては大学の学生課にお願いしております。事務連絡や郵送など煩雑な業務を引き受けていただき、円滑な組織運営ができています。紙面をお借りして改めてお礼申し上げる次第です。

1 学位記授与式について
平成22年度学位記授与式は短期大学部について最後の授与式となりました。昭和38年4月に開校以来、15,671人の卒業生を世に送り出した短期大学の歴史に終止符が打たれた日であり、文教大学吹奏楽部の演奏に合わせて、学芸部で行った幼児保育学科38名の一人一人の歌声が会場全体に響き渡り、聞かざるをえなかった素晴らしい歌声でした。

輝きに満ち溢れた瞳から発せられる光は、子どもたちの心を掴んで大きく育んでいく力となり得ることを確信しながら学芸部を聞いていました。

2 平成23年度後援会総会について
今年度の総会は入学式当日の4月2日に開催されました。昨年度の後援会の実績や今年度の事業計画等について説明させていただきました。また後援会の実情や役員就任もお願いしました。その後、後述の4点に關して意見・質問がありました。

① 東日本大震災被災地出身の学生支援について後援会として何か考えているのか？
現在、在学生4名、新入生2名の計6名の被災地出身者がいるが、大学側は減免措置を講じている(学長)。後援会としては今後、後援会が可能な事業を検討する方向である。後日の役員会においてこれら6名の学生から後援会費を徴収しないことを決定した。

支援の基本的な考え方としては、被災地から今後文教大学の入学希望者が予測されることから、一時的な支援よりも長い目で見た観点から支援を行っていくことが必要との判断を後日役員会で確認した。今後後援会として対応すべき問題が生じた時点で、対処法を模索していく方針であります。

② 被災地支援の在り方について後援会独自で義援金などの対応ができないかという意見も出されましたが、後援会費から義援金拠出というのは馴染まない為、行いません。但し、北海道文教大学の学生が

被災地に向き、応援活動を行う等の後援会広報費を充てることが可能な活動に関して支援していくことを確認しました。

③ 総会時点を活用し役員就任申請アンケートなどの実施について役員就任の手がかりがない状況が続いているのであれば、総会参加者に対してアンケートを配布し、役員就任の意思確認をすることが選出をスムーズにする一助となるのでは？という意見が出されました。

④ 予算の執行率について決算時点での予算執行率表示をしいただくことで、その事業に対する予算が適当であったかどうかを判断できるのではないかという意見が出されました。今後、前向きに検討していきます。

3 平成23年度後援会事業のポイント
① 顧問について伊藤前会長にこれまでの会長としての貴重な経験や、今後の後援会活動に反映していただきたく、顧問の就任要請をお願いして快諾いただきました。3回のワーキンググループに出席していただき、ご助言を頂くことになりました。

② 事業執行予算としては、別冊のとおりです。22年度と同じ傾向にありますがポイントをお願いします。

(一)ワーキング・・・会議費をできるだけ節約し、学生に還元するようにしていくという意向にありますがワーキングについては今年度も事業として組み入れたい。メリットとしては、意見集約の迅速化や突発的な事業への対応、議論の活性化や役員会の前向きな場となっていくことから年度も継続していきます。

(二)修学資金貸付金特別会計繰り出し金の廃止について・・・平成19年から運用されたもので、廃止時期は5年後に見直しをかけることでスタートしましたが、3年間利用者ゼロであった為、4年度目以降平成22年度に検討を加えた結果、廃止と決定し、利用されない理由としては、卒業後の返済が大変である事(5年以内返済)、他奨学金資金に間に合うこと(日本学生支援機構修学資金制度)があげられ、実用制度には至りませんでした。

(三)就職活動助成の増額より依然として続く就職氷河期に備えるべく、就職試験対策講座の強化等を図るために増額しました。

(四)学生指導助成(22年度の執行率も低い)でしたが、事業効果の点から増やしたいとの判断で22年度と同額を算出しました。

(五)後援会文庫整備事業・・・200万と同等が学生からの要望に添って算出している側面があり、今後、中間監査時増額となりうる事業であります。

(六)学生活動助成・・・自主的課外活動を促進させる観点から、大学祭や体育大会等の各種行事助成費を増額しています。

(七)後援会活動調整基金・・・年間100万円を積み立てます。平成21年度から積み立てているもので、平成24年度に学校法人鶴岡学園創立70周年記念事業への対応を容易にするために設けた基金であります。

(八)予備費の460万円について4号館竣工やサークル会館建設、銅像関連、後援会文庫事業への出費が予測されることから多くしました。

4 平成23年度キャンパスウォッチング雑感
去る7月14日(木)11時から役員9名による「キャンパスウォッチング」を実施いたしました。キャンパスウォッチングは、学内において学生さんか通常の行動などを観察することにより、後援会が執行した事業がどのような評価されているのか、またどのようなことにより不自由ではないのかなどを把握して、今後の後援会活動に活かすことを目的として実施しているものです。

この参加した9名の平均日実施しなればならず、役員は仕事を休んだの参加、13名予定のところ当日の参加者は9名でした。

はじめに鈴木学長より挨拶があり、その中で学校法の収支状況や建物、教授人員数が設置基準を満たしていないこと、就職試験対策室の設置、二ノ丁フリースペースを適切に作らないこと、就職に関する大学側の決意などをお聞かせいただきました。少子化の中で大学の生き残り戦略の一つとして、環境整備に重点を置いている点を強調されていました。

たが、人的、物理的環境整備に力を使い、いくという鈴木学長の強い意気込みを聞かされ、子孫を預ける親として大変心強く感じました。

カフテリアについて「幾人かの学生から狭い」との苦情が寄せられていたが、絶対数は足りている状況であった。テーブルの上の荷物を置いて使用している、あるいはグループ数人で同じ場所に座るには空きスペースが不足しているなど、使用方法に課題があるように思えた。食事に關しては、メニューの種類や味の評判がよく、値段も安く提供されていた。

図書館について現在図書館の利用時間が平日を除き土曜日は午後2時迄、日曜日は休館となっているがテスト期間は、時間の延長などの対応を要望した。また、図書館の空調関係も図書館建設時は気象状況が変化してきていることなどからエアコン設置についても検討を要望した。

学生サークル会館について学友会委員長代理の学生からサークル会館内に学友会室を移転する際、後援会の要望事項として出していたテキストパソコン、会議用テーブル、ソファなどの備品購入に対する支援についてお礼の言葉を頂いた。学友会室内では、照明を落とし、事務作業が行われているなど、ご意識が徹底されていた。使用目的に違いがあるが希望したサークルや部13団体が入って使用していた。管理運営も学生自らルールを作り行っているとの説明を受けた。最初がポイントであり、未だ継続されるルールが作られることを望みたい。いろいろな意味で学生の自主管理能力が試される場であるとの印象を受けた。

暖房設備が学友会室のみで、他の場所に設置されて無いかや各部室に暖かくないことなどが今後の課題になると思われる。製氷機については、サークル会館のホールに設置して利用する計画についての説明を受けた。

委員の設置場所について体育館内や屋外での練習場となる近くの設備候補場所を見つけたが、使用頻度や管理面で問題があり、最終的には学友会に任せざるをえないのが実情であり、求める場所の設置を今後具体化していきたい。

その他、吹奏楽部の存在が大学のステータスを高め、学位記授与式や入学式においてその素晴らしい演奏を聞かせてもっているが、70周年を契機に向けて更なる充実を図っていくことが求められているように思われる。駐輪場整備事業と合わせて、大学が要があれば役員会の壇上へ載せなければならぬ課題である。

見学を終えて11時から3時までの間いろいろな施設の見学を終えて参加した役員全員で今回のキャンパスウォッチングの総括を行った。内容については上記に記したとおりであり、学長も参加されていたので要緊事項をお伝えさせていただきました。

ある理事より、後援会役員を経験することで、子供たちのキャンパスライフを身近なものとしてきて親の絆がより深まること、交通費や日当が出ることを他の会員に知らしめて、役員の魅力アピールに入きであるという意見が出されました。

この後援会役員の日当経費支出に關して紹介いたします。役員会の参加費に關して内規があり、基本的な考え方としては札幌市内で会議を開くことが前提となっております。大学の出張規定に基づいて決められています。札幌市内から参加の場合は交通費1000円、日当3000円となっております。札幌以外の役員に關しては、交通費が実費支給されます。役員会費を支払う以外に、役員構成は札幌在住の個人を優先して決定していますが、それでも地方の人に頼らざるを得ない現実もあり苦慮しているところでもあります。

以上、ご報告させていただきましたが、冒頭に申し上げたように、本会報は、後援会活動の状況などをお知らせし、ご理解とご協力を得ることを目的としたものであります。ご一読いただき、後援会活動に対するご意見や要望をお寄せいただきたく思います。

終わりに、私も役員はそれぞれ仕事をしながら、いわばボランティアとして後援会活動に従事しておりますので、活動に不向きな点があるものと思われまふ。会員の皆様方には、本会報を拝見の上、後援会の目的が達成できますように、今後とも後援会活動の積極的なご参加とな一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

理事長・学長挨拶

学生諸君に期待する

「責任・尊敬・世界」

学校法人鶴岡学園 理事長
北海道文教大学 学長

鈴木 武夫



後援会の皆様の温かいご理解とご支援につきまして心から感謝申し上げます。

お蔭様をもちましてこのたびの「平成二十三年度北海道文教大学キャンパス整備計画」も順調に進捗しております。

「サークル会館」は、初夏のうちに予定通り竣工いたしました。また学生ラウンジやパントリーそして中教室の含まれた「8号館」も春の竣工を目指して建設の槌音も快く響いているということをご報告させていただきます。

このように活気あふれるキャンパスにあって元気に青春の時を謳歌する学生諸君に、日ごろ私が語りかけたいと強く念じていることをいくつか述べておきたいと思えます。

はじめに、人間として自立した存在になるべく成長するということは、自分に課せられた責任を全うするということにはほかならないということです。

諸君は学ぶ条件が整えられて、今専門の学問研究に専念することができている。そしてその権利を持つということはその支えとなる責任を担うということでもあることを強く自覚してほしい。

次に自分の存在や自分の身の回りにおいて、先導する教師諸兄や、同じ道を志す仲間、尊敬と誇りをも

って前進してほしい。それぞれがこれまでの生きる時間のなかで、互いに求めるものがあってここで出会ったということを大切にしてほしい。

すぐれた師と出会ったことや、すぐれた学友と出会ったことを、自らの誇りとして自分もまた、その道に精進してほしいものです。

そして人間の人生にとつて最も豊かな実りは、豊かな人間関係によつてもたらされるという人生の真理に到達してくれることを期待します。

もうひとつは、人間としての充実感はこの専門分野を通して、世界の建設に役立っているのだという自覚ができたときにもたらされるということです。

狭い分野かもしれないし、周囲の人から高い評価を受けることも少ないかもしれませんが、かけがえない存在として世界を支える具体的な力となること。それが本学の大切な建学の精神であり「実学の尊重」を教育目標の第一とするゆえんであります。

学生諸君が高い専門能力と豊かな教養を培い、前途有為な人材として世界の建設に貢献してくれることが、私ども学園関係者の心からの願いであります。

そのために学生諸君の一層の学問研究の進展のためにカリキュラムを吟味し、すぐれた教師陣を整え、学園施設の充実を図りたいと念ずる次第であります。

平成23年度 北海道文教大学後援会役員名簿

名譽会長	鈴木 武夫	顧問	伊藤 啓志久	会長	遠山 英行	副会長	進藤 春美	副会長	石山 武浩	監査	佐藤 博	監査	木村 慶吾	理事	村上 伸子	理事	橋本 弘	理事	喜多 百合子	理事	佐々木 育映	理事	田島 典子	理事	藤田 順子	理事	武永 真	理事	木村 昌子	理事	澤本 剛	理事	新藤 由美	理事	吉野 祐二	理事	後藤 秀樹	理事	萩野 克己	理事	齋藤 弘明	理事	神谷 忠孝	理事	近藤 文衛	理事	石丸 朝生	会計	石丸 朝生	事務局	浅見 晴江	事務局	大藤 昭
------	-------	----	--------	----	-------	-----	-------	-----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	------	----	--------	----	--------	----	-------	----	-------	----	------	----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	-----	-------	-----	------

就職課便り

就職活動について

新卒者に対して、企業が求める資質能力を備える為に、就職活動を通じて、どのように考え、行動していくべきかまとめてみたいと思います。

就職活動に向けての取り組み

ビジネスの現場で、「人間力」ということが話題になっています。将来、企業で活躍する為の基本的な資質として、この「人間力」を重視しているようです。「人間力」を人事担当者は、もとより2次面接、3次面接に於いて、企業の幹部の多くの方々が選考基準の中心にしていることを良く聞きます。

「人間力」とは何か規定された具体的な能力ではないと思います。

物事に積極的に挑戦する意欲、責任感、自己を豊かに表現する能力、物事の解決に向けて誠実に、根気強く取り組む姿勢などの総称だと思えます。これらは短期間にそして、頭の中で、考えて、知識として、身に付くものではありません。

学習や実習をしてさまざまな課外活動などを通じて、意識して取り組み、日々の実践によって、培われる力です。

就職活動に向けて意識の高揚

近年、通年の採用の企業が多くなっています。このような採用状況の中でも、景気や企業の業績の影響を確かに受け易いですが、新卒採用は、今もって多くの企業の人材獲得として、最も大きな採用手段です。それだけに、企業は、自社の将来を担う新卒の人材確保に努めています。

就職活動に取り組む学生の姿勢や考え方は、様々です。最初から、目指す企業や職種に向かって挑戦し、その内定を得たならば就職活動をストップする学生もいます。また、とにかく内定を早くとりたい、複数の内定を目指し、その中から就職先を選択したいと考えている学生もいます。そして、就職活動に対する意識の中で、「気持ちだけはあせるが」「自分は何をしたか分からない」「就職活動にやる気が出ない」など就職活動へのモチベーションを見出せない場合も考えられます。また、なんとなく周囲が活動しているの、気持ちだけが焦り、就職イメージを持たないで、就職活動を進めている学生も考えられます。

最近、大学卒業して、短期間の間の離職率が高くなってきています。

特に、3年以内の離職者が後を立ちません。

若年層の離職理由としては、労働政策研究・研修機構の調査によると「給与に不満」「仕事上のストレスが大きい」「職場の人間関係がつかない」「会社の将来性・安定性に期待が持てない」などが上位に挙げられています。

就職活動の学生自身が、業種・職種を理解し、受験する会社の特色や業務内容を理解することが大切です。

「この会社でのやりがいがあるか」「将来活躍できる自分をイメージして、自己の興味・関心・適性などに合わせ、志望先を焦点化し、選考試験に向けて、履歴書・自己紹介書、エントリーシート、面接など、自分が納得する十分な準備を重ねていく必要があります。」

志望の理由を明確にして、就職活動を進めていかなければなりません。ただ内定すれば良いという事ではなく、企業での自分を想定し、就職後の自分を意識しながら、企業を選定し、真摯に就職活動に取り組んでいかなければなりません。

今日、企業が求める人材は

企業が求める人材を挙げながら、その為に、学生生活をどのように心掛けていくか考えてみたいと思います。

- 1、適切な情報を収集し、その情報目的に合わせて整理しながら、自己の考えを構築していく習慣を身に付ける。
- 2、何事も課題意識を持ち、改善に向けて、取り組む姿勢を持つ。
- 3、創造的に物事を考え、自分の意見を持ち、自分らしく、自己の考えを表現していく。

その為に、将来職場で活躍するこれらの資質を高める為、意識的に学生生活に於いて、次のことに取り組んでいくことが大切である。

- 1、メモを取る習慣を身に付ける
 - 2、積極的に取り組む
 - 3、一つの課題解決に向けて、メンバーと協議し、前向きに発言する。
- 自分のアイデアが受け入れられる喜びを体験しながら、互いの考えを出し合って取り組んでいく経験によって、将来、企業に於いて各種会議で発言する力を身に付ける。

就職支援講座・資格取得に対する後援会の支援

北海道文教大学後援会より就職支援として、就職課主催の就職講座実施に当たり、外部講師の講師料などを支給して頂いています。また一定のレベルの検定に合格した学生に対し、検定受験料の支給を受けています。これは、平成二〇年四月からですが、資格が重視されている今日、学生の資格取得の受験を奨励する為のもです。

奨励金を受けた学生の人数は、年毎に増加傾向にあります。講座受講者数、資格取得奨励金受給者数は、表の通りです。

平成22年度 資格取得奨励金該当者数 (人)

資格名	外国語学部				人間科学部				合計
	英米語	中国語	日本語	国際言語	健康栄養	理学	作業	看護	
福祉住環境コーディネーター 2級	-	-	-	-	3	37	19	-	59
日商販売士 3級	1	2	3	-	10	-	-	-	16
英語検定 2級	8	-	-	1	-	-	-	1	10
TOEIC 600点以上	6	-	-	-	1	-	-	-	7
漢字検定 2級	-	1	3	-	-	-	-	-	4
ファイナンシャル・プランニング 3級(2科目合格)	-	-	-	-	4	-	-	-	4
ファイナンシャル・プランニング 3級(1科目合格)	1	-	-	-	4	-	-	-	5
中国語検定 2級	-	2	-	-	-	-	-	-	2
TECC 600点以上	-	1	-	-	-	-	-	-	1
秘書技能検定 2級	-	1	-	-	-	-	-	-	1
サービスマン実務検定 2級	-	1	-	-	-	-	-	-	1
合計	16	8	6	1	22	37	19	1	110

平成22年度 就職支援講座受講者数 (人)

学部	学科	学年	筆記試験対策講座 (4年生)	筆記試験対策講座 (3年生)	R-CAP (3年生)	MOS講座	公務員講座	販売士講座	合計	
										人間科学部
人間科学部	健康栄養	1	-	-	-	8	-	-	8	
		2	-	-	-	20	19	5	44	
		3	78	93	113	15	18	8	247	
	理学療法	1	-	-	-	-	-	-	-	0
		2	-	-	-	-	-	-	-	0
		3	-	-	1	-	-	-	-	1
		4	-	-	-	-	-	-	-	0
	作業療法	1	-	-	-	-	-	-	-	0
		2	-	-	-	-	-	-	-	0
		3	-	-	4	-	-	-	-	4
		4	-	-	-	-	-	-	-	0
	看護	1	-	-	-	-	4	-	1	5
2		-	-	-	-	-	-	-	0	
3		-	-	-	-	-	-	-	0	
4		-	-	-	-	-	-	-	0	
こも	1	-	-	-	-	-	-	-	0	
	2	-	-	-	-	-	-	-	0	
外国語学部	英米語	3	-	5	8	1	1	3	18	
		4	8	-	-	-	-	-	8	
	中国語	3	-	8	13	-	1	-	24	
		4	5	-	-	1	-	-	6	
	日本語	3	-	9	27	4	7	5	52	
		4	6	-	-	-	-	-	6	
	国際言語	1	-	-	-	-	-	-	0	
		2	-	-	-	-	-	-	0	
合計		97	115	166	49	50	24	501		

平成22年度 決算

〈収入の部〉

科 目	予算額	決算額	備 考
繰 越 金	6,102,638	6,102,638	
会 費 収 入	31,284,000	31,234,500	16,500円×1,709人
雑 収 入	3,140	3,312	普通預金利息
合 計	37,389,778	37,340,450	

〈支出の部〉

科 目	予算額	決算額	備 考
1.事務費	1,100,000	1,042,940	
(1)通信費等	1,100,000	1,042,940	総会・父母懇・役員会等案内状郵送・大学名入り封筒等
2.会議費	1,450,000	1,404,076	
(1)総会	600,000	554,410	総会費用・役員交通費・紅白饅頭(入学式配布)
(2)役員会費	850,000	849,666	役員会・父母懇談会打合せ・交通費
3.事業費	28,750,000	26,197,497	
(1)学生活動助成	11,250,000	10,327,506	学生数按分～(大学:短大=9:1)
(a)学生会助成	1,000,000	1,000,000	学友会(大学)・学生会(短大)助成
(b)文化・体育助成	9,350,000	8,427,506	学生活動に関する助成
(c)各種行事助成費	900,000	900,000	大学祭・体育大会等行事助成
(2)「後援会文庫」整備事業費	3,000,000	3,000,000	書籍の購入
(3)父母懇談会	2,000,000	1,658,618	本学キャンパス・地方2会場(函館・釧路)
(4)卒業記念助成	3,000,000	2,772,525	卒業記念品・紅白饅頭(卒業式配布)
(5)「卒業祝賀会」費	4,000,000	3,934,728	卒業祝賀会費用
(6)就職活動助成	4,500,000	4,014,620	就職講座等
(7)修学資金貸付金特別会計繰出金	0	0	
(8)広報費	800,000	409,500	会報(年2回)・広報活動
(9)慶弔費	200,000	80,000	
4.学生指導助成	4,000,000	2,578,646	アドバイザー制度助成(学生指導助成事業)
5.後援会活動調整基金	1,000,000	1,000,000	
6.予備費	1,089,778	0	
支出合計	37,389,778	32,223,159	

収入・現決算額 37,340,450
 支出・現決算額 32,223,159
 決算差異額 5,117,291 (繰越額)

平成23年度 予算

〈収入の部〉

科 目	予算額	備 考
繰 越 金	5,117,291	
会 費 収 入	33,000,000	16,500×2,000人
雑 収 入	5,000	普通預金利息
合 計	38,122,291	

〈支出の部〉

科 目	予算額	備 考
1.事務費	1,100,000	
(1)通信費等	1,100,000	総会・父母懇・役員回答案内発送
2.会議費	1,400,000	
(1)総会	600,000	総会費用・役員交通費・紅白饅頭(入学式配布)
(2)役員会費	800,000	
3.事業費	26,000,000	
(1)学生活動助成	9,000,000	
(a)学生会助成	1,000,000	
(b)文化・体育助成	7,000,000	学生活動に関する助成
(c)各種行事助成費	1,000,000	大学祭・体育大会等行事助成
(2)「後援会文庫」整備事業費	2,000,000	書籍の購入
(3)父母懇談会	2,000,000	本学キャンパス・地方2会場
(4)卒業記念助成	3,000,000	卒業記念品・紅白饅頭(卒業式配布)
(5)「卒業祝賀会」費	4,000,000	卒業祝賀会費用
(6)就職活動助成	5,000,000	就職講座等
(7)修学資金貸付金特別会計繰出金	0	平成22年度をもって廃止→実績 0
(8)広報費	800,000	会報(年2回)・広報活動
(9)慶弔費	200,000	
4.学生指導助成	4,000,000	学生指導に供する助成
5.後援会活動調整基金	1,000,000	H.24学園創立70周年
6.予備費	4,622,291	・8号館及びサークル会館竣工対策 ・籍岡ご夫妻銅像関連 ・後援会文庫の件 ・その他突発的事由 等々を想定
支出合計	38,122,291	

平成23年度
後援会
事業計画

平成23年 4月 2日	定期総会	平成23年 10月	中間監査
平成23年 4月15日	第1回ワーキンググループ	平成23年 10月	第2回ワーキンググループ
平成23年 6月3日	第1回役員会	平成23年 12月	第2回役員会
平成23年 7月14日	キャンパスウォッチング	平成24年 2月	第3回ワーキンググループ
平成23年 8月27日	父母懇談会(旭川会場)の助成	平成24年 3月17日	平成23年度学位記授与式記念品助成
平成23年 9月10日	父母懇談会(函館会場)の助成	平成24年 3月17日	平成23年度卒業祝賀会及び同窓会入会式助成
平成23年 10月9日	父母懇談会(恵庭キャンパス)助成	平成24年 3月	監 査
平成23年 10月8日・9日	大学祭の助成	平成24年 3月	第3回役員会



のではないかと思います。

当日は晴天に恵まれ、大学祭では模擬店やステージ企画、バラエティ番組等でおなじみの、「TKO」「カナリア」「アームストロング」のゲストライブがあり、ご父母の皆様には、学生が全力投球で立案した企画をお楽しみいただけたのではないかと思います。

導がうかがえて親として安心した」といったご感想をいただきました。

三会場で四百五十名強のご父母の皆様にご出席いただき、恵庭キャンパス会場では四百名のご父母が参加され、遠山後援会長から後援会の概況報告、鈴木理事長・学長をはじめ大学側出席教職員から大学の現況、教務・学生及び就職関係の報告の後、看護学科四年の矢部美帆さんから就職内定の報告がありました。その後、各学科別に説明会・個別面談を実施し、ご出席のご父母の皆様からは、「担当の先生の面談がとても丁寧で分かりやすく、大学の熱心な指導がうかがえて親として安心した」といったご感想をいただきました。

「父母懇談会」が開催されました。

平成二十三年度北海道文教大学の父母懇談会が、八月二十七日(土)の旭川会場、九月十日(土)の函館会場に引き続き、十月九日(日)に大学祭に合わせて恵庭キャンパス会場で開催されました。